

OHCA 特別委員会企画オープンミーティング ～ JAAM-OHCA レジストリの展望と課題～

日本救急医学会

院外心停止例救命のための効果的救急医療体制・治療ストラテジの構築に関する

学会主導研究推進特別委員会（OHCA 特別委員会）

内容：

座長

森村尚登（横浜市立大学大学院医学研究科 救急医学，OHCA 特別委員会委員長）

石見拓（京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター，同委員）

演題

1. レジストリの目的と展望：石見拓（京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター，OHCA 特別委員会委員）
2. レジストリへの参加方法：櫻井淳（日本大学医学部附属板橋病院 救命救急センター，OHCA 特別委員会委員）
3. レジストリの内容：遠藤智之（東北大学大学院医学系研究科総合地域医療研修センター，OHCA 特別委員会委員）
4. 登録の課題と工夫 演者未定
5. 来場者参加型オープンディスカッション

概要：

消防機関による院外心停止（OHCA）例の登録により，様々な知見が得られるようになった。しかし，現在のOHCA登録は病院前情報を中心であり，搬送先での初期診療と集中治療などの実績は明らかでない。今後は，搬送先到着後の診療データを，病院前情報と連結できる形で登録し，①予後予測因子の検討，②社会復帰率向上に寄与する治療体制・集中治療の検討等を進めていく必要がある。

日本救急医学会 救命救急法検討委員会では、『OHCAの病院到着後の基礎情報を登録する共通プラットフォームの構築』に向けて検討を重ねてきたが，このたび，学会主導研究としてOHCAの病院搬送後のレジストリを多施設共同研究としてスタートすることとなった。本レジストリの目的は、『心停止症例の蘇生に関わるデータを収集し，客観的な検証を行うことにより，心停止例の救命率を向上させること』であり，①PDSA（plan, do, study, act）サイクルに基づくマネジメント手法による，地域救急医療体制の改善の支援，②救急医療に関わる院内・院外データレジストリの集約と登録業務の軽減，③救急蘇生領域の臨床研究・疫学研究の促進，④客観的なデータに基づく参加施設へのフィードバック／ベンチマーキング，の4目標を掲げている。

レジストリを成功させ，目的を達成するためには，多くの救急医療関係者にレジストリの意義・目標をご理解いただき，幅広くご参加いただく必要がある。本企画を通じて，レジストリの現状と課題を共有し，皆様とオープンに議論を深めることで，OHCAレジストリの構築につなげていきたいと考えている。